

温かなかわり 由宇保育園（山口県岩国市）

【2～5歳児】

＜「科学する心」を育む関心や意欲を培う“異年齢の幼児同士のかかわり”の場面を捉えました＞

事例1 小麦粉粘土遊び 小麦粉に魔法の水を加え、粘土にした。それを異年齢の子ども同士のチームで、力を合わせていろいろな形を作った。

4、5歳児白い小麦粉を触り「さらさらして気持ちいい。触ってごらん」と、小さい子が触れるように促す。小さい子をじっと見入る。
2歳児クラスの子どもたちにも、小麦粉粘土を作ってあげる。力を合わせて作る。
「ほら、小麦粉粘土になってきたよ。触ってごらん」「こうやったら、面白いのができるよ」などと声をかけながら、一緒に小麦粉粘土で遊ぶ。

さらさらして気持ちいい。触ってごらん



ほら、小麦粉粘土になってきたよ

事例2 川遊び 3・4・5歳児で近くの川まで遊びに行く。当初は一人ひとりが思い思いに自分のしたいことを楽しんでいた。次第に5歳児が、3・4歳児を仲間に入れて遊びようになっていった。

思い思いに水遊びを楽しむ。
「小さい子どもたちと一緒に遊んであげよう」
タライの舟に乗せてあげる。
・タライに小さい子が一人乗ると、5歳児一人でも支えられる。二人乗ると傾く。
みんなで持てば傾かない。沈まない。
タニシ捕りをする。
・「これタニシって言うのよ」と言って触れるようにしてあげる。
・「いっぱいタニシ捕れたよ」と言って見せたり、一緒に捕ったりする。

みんなで持てば傾かない。沈まない。



これタニシって言うのよ

事例3 自転車乗り 4歳児が自転車乗りの練習を始めた。自分で乗れる5歳児が、自然に乗り方を教え始めた。

5月、4歳児が朝の自由な遊びの時間を使って、自転車練習に取り組んでいる。
5歳児が自然的に自転車の乗り方を教えた。



（怖くて乗ることができず、またいで歩いていく子に対して、5歳児）
「ペダルに足を乗せてごらんよ。持っているから大丈夫。こいでごらん」

フラフラしてしまう子には、ハンドルを持って後ろに乗りバランスの取り方を教えてあげようとする。
足が届かず上手く進めない子には、後ろから押してあげて乗る楽しさを教えてあげる。

「ハンドルは、グーでしっかり握るんよ」

みどころ

異年齢の子どものかかわり合いが、日常の様々な場面で見られることが分かります。同年齢の子ども同士と一緒に活動する時には見られない“視線や言葉”気遣いなど、互いに相手に伝えようとする事で引き出される「科学する心」を捉える保育者の感性や姿勢により、異年齢の幼児同士のかかわりがより有意義な体験の場面になります。